京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年號外二千五百七十一號 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢 ▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日(日刊)
廣告料 ▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲一號活字 特別廣告 五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太郎
印刷人 松久騏一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六大三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

面及洞に關する舊慣制度(九)
(朝鮮總督府調査)

甲午以後に於ける面及洞(五)
第二項 職員の任免及職務權限
洞の機關(つゞき)。

(四)任員 洞に任員又は公員なるものを置ける地方あり公錢徵收員に屬し租稅徵收の任に當り洞長之を兼ぬる場合多し(五)下有司 は洞の小使にして地方により洞民一個年交代に之に任ずるものなり

△面會及洞會 昔時は春秋二季に開催する慣例ありたりと稱すれども現時は必要に應じ隨時集會す從來に於ける面會の議事々項は結税雜税の増課又は新設治道堤伏の修理工事に關する夫役面職員の推擧及面經費の賦課等に止まる現時と雖も都邑を除くの外は從來と大差なし

面の議事々項にして利害關係の數面に涉るものは關係各面の面長及有力者會同議事す之を大面會と稱ず

洞會の開催も亦面會と大同小異にして比較的自治事項の議事多きの差あるのみ、面會及洞會なるものは元より何等の組織なく其の議事に關しても亦何等の規律あるなく只雜然集合し事を決するの慣習にして甲午條規の議事に關する規定の如きは却て實際に適せず思ふに洞民の階級的制度と長幼の序を重んずるの習俗は年長にして多少の地位と人望とを有する者の主張は甚しき悖理に非る限り之に服從するは一般の慣習なるが如し

第三項 面事務執行の狀況

面長の執務は多く地方にありては面長の自宅に於てし現在と雖も別に事務所を設けるもの〻如きは稀なり只開城には昔時より振勵館と稱し邑内四部面の面長及洞長の集會執務所あり又釜山附近の面内各洞に洞舍と稱する洞民集會所あり之等は異例に屬す晩近仁川府内面にて面議所を安東邑にては面事務所を置きたり其他釜山馬山に民議所大邱に府民會議所の設けあるも我民團制に倣ひ地方有力者が公共の事務を處理する目的を以て府尹又は郡守の認可を得て設立せるものに屬す(元の内部に於ては之を承認せず)而して面事務所として稍々體裁を備ふるは仁川府内面のみにして開城安東の如きは舊式の机一二個に硯函二三個を備付けあるのみにして各自開議合し目前の事務を處理するのみ地方官衙の訓令其他必要書類の整理の如きは仁川に於て稍見るべきものあるの外其他は稀に官衙別に編綴せるものあるの外總て雜然書箱に投入せるのみ

外事一束

△アド リアチック海に伊土驅逐艦戰鬪、墺伊蹯蹶しア海戰局外とな(る)
△佛領 亞弗利加讓與に對し佛民激昂し對獨交涉再難地に入り國民外交難哉
△トリポリ 土軍内地に追却し地方兵逃走多し土國官吏伊國新知事に逐はる
△露は 土國が穀類を戰時禁制品としたるに對し黑海貿易打撃を憂ひ抗議す
△四川 暴動益熾し灌縣嘉定府を陷れ徐州府亦危し而て岑春煊却て上海に去り
△甘肅 省回教徒叛し蘭州頗る西寧陷り陝西の軍隊討伐に向ふ湖西南多事
△衛國 王黨振否二機の電信あり紛々として政治劇今や盛なり暗中模索中平

文苑

●獵期迫る 匿名氏

秋高く馬肥て秋氣清し銃獵家の待ちに待たる狩獵期も來り、火藥等の買入より延ては裝彈を爲さんとする獵獲の目的の物に因り散彈の大小あり故に探檢の必要ある等多忙の狀態賊に察すべきなり水禽野鳥は、水色、一山、紋山方面、鶉、鴫は永登浦、素砂、京釜線にては軍浦場より天安まで雉子最も澤山なりと聞く近くは麻浦西北の水田及び東大門外にては鴫、鴨、鶉等多しと特に本年は雉子の繁殖前年に倍すと云ふ初日は日曜日なるに付き定めて出獵者も多き事ならん二兎を逐ふものは一兎を得ずと中原の鹿誰人の手に歸するか來る十五日こそ見物ならん

●妻を送る 涙舟

行く汽車!健全ない乘れる妻よ幸あれ列車に乘り込む其の時に汝が襟を傳ひし露の一滴りも如何なる情やこもるらん思ふ間もなく無情の汽車は進み行き汝が振り返る影は細く微かに成り行くなる見送る我れに憂ありと知るや知らずや汽車や舟や波風靜かにあれよかし

俳句

仁川卯月會俳句第九輯(二)
△題、月さま〴〵△…

三日月や市松人形の眉毛ほど 翫月
山荘に集ふ碁客や月今宵 波舘
月恨む無分別なる二八かな 竹香
寐に就くや月に雨戸は明けし儘 竹賀
殘月や如意輪堂の客はたれ 枯柳
今日の月父母いまさばと思ひ見 松園
伏して待つ人の油斷や山の月 里石
月照るや黃金の田の浪の上 柳仙
酒盡きて芦間戻りぬ月見舟 一滴
明月や征番隊の陣靜 碧若
月さやか野風呂に乙女耻かしき 哲舟
明月や戀されくるゝ一渡舟 竹賀
ひと泊り泊り重ねて今日の月 一杯
寐ぬ宿を須磨に求めて月の旅 色葉
素咄しの終酒になる月見哉 翫月
名月や心を配る鉢の松 竹窓
夜拵や月見かてらの渡舟守 是空
地引網に人だかりする月見哉 花卯
月の庵居僧若うして客入れず 一滴
月皎々不夜城の灯の茫として 竹窓
蔭縷々松も聲あり庭の月 波舘
つれ〴〵や月待宵の庭歩行 是空
酒を賣る家は未だ寐ず月今宵 一雫
頒城も賣も殖へていしい〳〵も秋 里石
雨の月にが〳〵しくも寐たり鬼 柳仙
花を見ぬ里はあれども今日の月 一杯
見古した眼にも新らし月見夜 梅華
月更けて長安の城物靜 一樹

梁川庄八(やながはしやうはち)

第九回 小金井蘆洲演

化地藏を村の者が七八人周圍を取卷いて、甲「マアー魂鏖たあなあ……石工の鑿で斬つても斯う鮮やかには斬れる者ちやあねへだ」乙「然うだ余程偉い人物で斬たに違いないだ」丙「何うも途方もねね事をする奴だなあ」と村人が舌を卷いて噂さどり〳〵、德兵衞右の容子を見て膽を潰して立歸りまして、德「若旦那樣昨夜の御話の一件、只今行て見て參りましたが仰しやる通り、美事に斬れて居りました、所の農夫が驚いて兎角の評を致して居りました」庄「然うか斬れたろう」德「就て若旦那貴樣は立派に御成長なされまして、梁川の家を再興なさらなければなりません、大望を懷いて居れでの方が、力量が勝れて居る武藝が出來遊ばすからと、年若に任せて斯樣な事を成すつて成ません、彼れは失禮ながら匹夫の勇と申ます者、以來は御愼み遊ばせよ」と異心面に現はしての意見、聞て居た庄八、庄「誠に左樣ぢやの……以來は愼しむぞ」と今更の如く後悔を致しまして匹夫の勇は愼しんで居る、其中に斯樣な事は、兎角世間の噂に上り易い者で、一「彼れは德兵衞の家にござる、梁川庄兵衞樣の遺子の庄八殿が、斬りなすつたに違ない」と云ふ評判がパッと高くなりました、驚く者もあり褒める者もあり、態々德兵衞方へ來て庄八に會つて尋ねる者もある、庄八今は是非なく斬つた次第を話をする、夫から夫へと擴まる、父の氣質を受繼いて剛の者だと人々強勇を云囃さん者はない、此地藏を元通りに漆喰で接合せて往來紀念のために梁川地藏と名付て、雨避を拵へて保存しました、今だに殘る阿武隈川の梁川地藏と古跡に殘つて居ります、何時か此事が家中の人々が聞傳へて地藏を袈裟斬にしたのは、梁川庄兵衞の遺子庄八と云事が政宗侯のれ耳に這入ました時、其の親にして其の子あり、勇武の氣性を御褒めになつた然るに星移り物變りまして、慶長十二年十月三日、今日は父の七回忌に相當致しますので、川崎村の唱名寺に冥法要を營みまする、施主は庄八和田但馬並に岩沼の德兵衞、當山の住職永善和尚末寺の僧を呼び上げて、懇ろの讀經回向、晝前は庄兵衞の知巳朋友杯が參詣をして燒香をする、午後は舊知行地の名主年寄組頭五人組若者頭杯が參詣一同燒香を終た後ち別間に招いで、配膳馳走に及ぶ、以前は梁川庄兵衞の知行地で有つたが梁川家斷絶の後は代官支配に成て居る、銘々庄兵衞在世の當時の事を物語りまして、馳走になる、「○ふ今日の佛樣が御存命で居の時は能く領分の中の者を可愛がつて下すつて、少し收穫が惡い歲なんぞは減租願をすれば、直ぐに御聞屆け下すつたが今は却々夫んな事はねへ、△「本當だなあ、思へば昔の御地頭樣が懷かしい」○「若樣も大層御立派に御成長遊ばして、御先代樣が御存命遊ばしてあらしたら、嘸かし御悅びであろうに、不圖した事から御亡くなり御家斷絶、誠にれ情けねへ事だ」と何れも涙を催して話をして居る、所へ庄八正面、庄「今日者は面々……昔の因縁によつて能く佛參を致しくれた、亡父も嘸かし草葉の陰で喜んでゐあろう、我も今は浪人の身であるが此儘埋れ木で終る所存はない、再び世に出た時は又何分頼むぞ」一同「有難う存じます、何卒御出世を願ひ申ます」庄「サア〳〵一同緩くり飲んで呉ますやう」と庄八德兵衞兩人が頻りに村方の者に酒を勸めた者ですから、一同嬉しがつて酩酊をした、其中に年齡七十計の赤ら顔で髪は白く大髷に結た老爺、恰度矢口渡しの頓兵衞見たやうな爺が、其處へ出て、馬「名主樣」名「なんだね」馬「俺らはあ……若樣にお目通りをしたう御座ゐますが、何うかれ前樣から宜敷御執成下せゑまし」名「然うか諾し〳〵……」エ、申上げながら俺らが馬平と申者」と恐る〳〵前へ出ました。

まず茲に出ました老爺は樋の口村の馬平と申します者、御先代樣の御供を致しまして戰の御旗持に出ました男でござります、毎度月待ち日待ち杯で若い者が集まりますと、御先代樣の戰場の御武勇のお話をば致して皆々に聞かせますので、誰云となく樋の口の戰爭話と云て評判の老爺でござります、最前から何か用がありますと見へて、爰へ出て御目通りを致したいと申して居ります、何うか御會いを願ひます」庄「ア、然うか遠慮なう是れへ」馬「恐れ



廣告

第三十八號
工事請負入札公告
一、壽町一丁目暗渠修繕工事
此入札保證金各自見積價格ノ百分ノ十以上
入札者ハ滿二個年以上斯業ニ從事シ現ニ居留民團税若クハ直接國税金五十圓以上ヲ納ムル者ニ限ル
右工事競爭入札ニ附ス請負希望ノ者ハ仕樣書、繪圖面、規則書及實地等熟覽ノ上本月十六日午前十一時限リ入札書ヲ當民團役所ニ差出スヘシ即時開札ス
此契約ハ本民團民長古城菅堂之ヲ擔當ス
明治四十四年十月十二日
京城居留民團役所

外國特電

▲獨佛交涉經過 獨佛摩洛哥協約の第一步は獨逸外相と佛國大使カンボン氏との間に調印せられたり而て賠償に關しては兩國共に其主義に於て一致せる處あるも其詳細に就ては尙交涉を繼續すと(伯林發)

▲占領地に觀兵式 伊國封鎖艦隊司令官はトリポリーに於て國王の名代として上陸部隊の觀兵式を行ひ絕對に占領地域の統轄式を施行せり其際トリポリーの市民は同地に於しアルバニア人が伊國の管轄を受くるは幸福なる可き旨を述べアルバニヤ人僧侶は何れも伊軍に服從を誓へり(伯林發)

▲伊軍トリポリ上陸 伊太利の遠征第二軍はトリポリに更に上陸せり

▲土國の水雷沈置 土耳古政府はダーダネルス海峽に水雷を沈置せり

▲葡萄王黨の檢擧 葡萄國政府は王黨の檢擧に着手せり

北京特電

▲革命亂情報 革命軍は約五千にして武昌、漢陽を陷落せしめ勢に乘じて其對岸なる漢口の支那街を占領せり [illegible]

[illegible] 軍師府陸軍部は迅に二箇師團を湖北に送り海軍提督 [illegible] 兵を督し鎭撫すべく

▲革命黨の紙幣發行 上海發電によれば武昌の反黨は紙幣を發行し同地の支那紙幣通用を停止し政府側の銀行(例へば大淸銀行支店の如き)は盛んに取付られつゝあり

▲大火災と我海軍 漢口に大火災起り電信不通となれり我が南淸艦隊の三艦は漢口に急航し居れり

留民を保護し對馬艦陸戰隊上陸各國民保護の任に當れり川島少將は列國海陸兵指揮官となれり各國租界は地方の義勇團にて護衛しつゝあり

▲革命軍優勢 革命軍の暴動は既に嘉定、敍州、漢口、黃州、武昌、安慶、岳州、長沙を占領し破竹の勢を以て前進しつゝあり

▲日本軍と外人保護 我陸戰隊は漢口に到着、各國居留民保護の任に當り川島司令官は領事團及列國艦隊長の合意に依り海陸兵を組織し暴民に備へ居れり

▲事態愈重大 革命軍の總指揮官は混成旅團長中將梁元浩にして南京、岳陽、長州、慶州、安慶も既に陷落せり河南新軍も暴動を起し銀號(銀行の事)軍機所を占領せり

▲淸國演習實戰となる 陸軍大演習は兩湖動亂の爲め中止し陸相は二個師團を帥ひ討伐に向ふこととなる

▲暴動と列國軍艦 中部支那に於ける革命黨蜂起に付て列國軍艦碇泊警戒中の者左の如し

英國三隻(嘉定府及び漢口)米國一隻(漢口)獨逸一隻(漢口)佛國一隻(漢口)露國一隻(漢口)

▲外人保護難 武昌各國在留外人保護難 武昌城門は叛軍を以て指揮せられ武昌城內に占領せられたり總督は城內外人を保護し能はざる旨通告したる爲めに日本人其他外國の軍隊は武昌に向かひつゝあり電信電話は全く杜絕せられ城內の消息は不明也

東京電報

▲銀行數と資本額 大藏省の調査に係る九月末現在各種銀行數は [illegible] 二百八十四圓にして是を前月末に比すれば行數に於て三、十五、資本金七億五千二百四十五萬圓を增り

▲中淸暴動公報(內務省) 漢口露國租界に於て密 [illegible] 居たる革命黨員は [illegible] 發見せられ二名は逮捕 [illegible] 武昌に於て二十名の者 [illegible] の爲め目下漢口に在る [illegible] 武昌軍隊中に暴動起り總督は軍艦にて [illegible] 武昌城內との交通は全く [illegible] 隅田を差向け又對馬は司令官を乘せて同地に向へり

▲僧侶の參列 暹羅皇帝陛下には來る十二月一日佛式に範り戴冠式を擧行あらせらるゝを以て我 [illegible] 務部に於て審査中なりと [illegible] 國佛教家を代表して濱松可睡齋及び名古屋日暹寺住職日置默禪師來る二十八日神戶發滊船にて出發參列する事に決定し同氏は歸途新嘉坡布教場に於て傳道と爲し夫れより支那天童山に參拜し春季歸朝の豫定なりと

▲動亂と我政府 抑も今回兩湖の動亂は必ずしも四川省の暴動に由り始めて激發したるに非ずして豫ねてより革命黨間に計畫されたる所彼の嶺南の暴動に何等かの干繫あるは識者の夙に認知せる所にして我政府も夙に今回の事あるべきを探知し特に南淸艦隊全部を長江筋に遊弋せしめ萬一に備へつゝありし程なれば臨機の處置に於て萬遺憾なかるべく如何に大動亂に對して列强に機先を制するやは蓋し看物なるべし

▲內田外相歸着 內田外務大臣は十四日歸京歡迎盛んなり

雜報

●英大使來京期 目下滿洲地方視察中の駐日英國大使マグドナルド氏は二十一日奉天發安奉沿線を視察し二十四日新義州を經て來京すべしと

●京元鐵道一部開通式 十五日午前九時より京元線龍山議政府間の鐵道開通式を擧行す

●鮮米關稅廢止運動 朝鮮米穀移出入撤廢問題に就ての內地方面に於ける運動は議會開會迄は東京商業會議所會頭中野武營氏に一任することゝなしたりといふ

●電燈料引下運動 京城商業會議所にては過般來電燈料引下げに關し日韓瓦斯に交涉中なりしも今尙ほ解決するに至らざるを以て近日總會を開き運動を開始すると同時に一方總督府に請願書を提出の筈なるが今試みに會議所調査に於ける京城及各地と最も需用の多き十六燭光の比較步合を示せば京都に比し八割七步强大阪及神戶に比し七割二步强東京橫濱に比し三割二步强釜山に比し一割八步にて何れも當地の需用者多き率を示せり尙ほ之れを各地の使用料と對照すれば左の如し

△京城二圓二十五錢△東京一圓七十錢△大坂一圓三十錢△京都一圓十錢△名古屋一圓二十錢△橫濱一圓七十錢△神戶一圓三十錢△釜山一圓九十錢△仁川二圓二十五錢△南滿洲一圓二十錢

●御下賜金の審査 第二回朝鮮暴風雨の被害に對し畏くも御下賜されたる救恤金の分配に關し目下內務部に於て審査中なりと

●總督府會計檢査 會計檢査院副檢査官大澤淸高氏は總督府會計檢査の爲め十三日夜入京十四日より二十三日迄で當地に滯在總督府各部及土地調査局、通信局、鐵道局、警務總監部其他の各官署の會計を檢査し二十四日より江原道黃海道京畿道の管內各官署を檢査すべしと

●黃金町光熙門間道路擴張經過 長濱內部土木課長談 黃金町通り及び永樂町二丁目より光熙門にいたる道路擴張に付き內部土木課にては昨今前記永樂町二丁目より齊事橋にいたる間(約千間)の土地買收に着手し居るが右土地所有者は日人五十五名鮮人百八十三名淸人二名合計二百四十名にして內買收に應じたるもの日人四十四名鮮人百五十九名淸人二名なり而して殘餘のものゝ中不在其の他の事故を以て諾否何れとも決定せざるものあるも其の內日人三名鮮人十七名は目今のところ絕對的不承諾を唱へ居れりされど是等不承諾者は從來の例に依り追々買收に應ずることとならん土地買收價格は最高一坪三十二圓最低三圓なるが其の間二三圓づゝの差に依りて等級を分ちり建物の移轉料は最高一坪六十五圓最低十圓にて之れ又二三圓づゝの差に依りて等級を分てるが表通りの土地は一坪平均十四圓なり尙取擴げは十二間にして現道路より南方に及ぼし一直線に改築せんの計畫なり云々

●商議役員會開催 京城日本人商業會議所にては會頭問題外數件に關し十四日午後六時より同會議所樓上に於て役員會を開く由なるが會頭問題は略ぼ同會議に於て決定するならんと

寄書

人類學者泰斗スター博士來る(二) 淸軒學人

△如何に日本人を研究するや△

友人ブロックマン君余を招ぎ博士と共に朝餐を取らんことを以てす之れ博士の靜閑なる朝なるを以てブ氏は余を招きたるなり終日研究觀察に多忙にして其靜閑なるは朝餐に友人を招待する隨分例のなきことなれども多忙なる外人間には往々あることにして余等は已に其經驗あり決して異例とも若へざる所なり七時三十分の朝餐と云ふ依つて西大門の小丘に在るブ氏の家に至れば食堂には已に暖爐の設けありて實に朋友に遭ふの感あり、須臾にして年齡六十餘の背高からざれども能く肥滿し頭に白雪を戴ける一紳士の微笑し入り來るあり、未だ握手挨拶をなさざるに其容貌溫乎たる表情の輝きの顏を透して表はるゝ樣は近づくものをして好個の紳士たるを察するに餘りあらしむ、ブ氏余を博士に紹介するや、博士初對面の挨拶をなし而して共に食卓に就き種々懇話をなすや、小生は恰も英國紳士に會する感を深くす、其言語の叮嚀にして動作の謙讓なる米國人士中に稀れに見る所なり且つ其衣服の質素なる之れが世界に著名なる大學者かと一驚する位なり、學界の異理を研鑽せん爲めに一意專心慕進し、俗世の嗜好に超然たるは實に欽羨に餘りあり、以て彼の曲學阿世の徒を慚死せしむ。余博士が日本に於ける經驗を問ふ、博士答へて曰く余は日本に於て足は北海道及び山陰道臺灣其他に及び且數ヶ月東京滯在中は日本の家に住し、三度日本食を取り、朝夕日本服を着し、冬も火鉢にて暮して日本人を研究したりと而して或は土人形、納札(佛閣神社に納むるもの)衣服、鏡等を研鑽する處ありと、以て其造詣する所の如何を察するを得、卓上種々なる談話を交換し食後更に相對して語る時に博士は余に博士の自筆錄に余の姓名を記せんことを求む余之を快諾するや博士は自室に至り一個の日本綴りの書冊を携來る、之れを披見すれば博士の面識の日本名士數十人各姓名と詩歌其感想の短篇を記す軍人、學者、新聞記者あり、博士は一々其姓名を記憶し其何人にして如何なる場合に之れを書せしやを語りたり、而して博士は余に在城の人士にして朝鮮を研究をなす人々に紹介の勞を取られんことを求められたるを以て余の知れる城內にては三宅長策、淺見倫太郞の兩君は豫てより朝鮮に關し研究せらるゝ深きを知り兩君に面會せらるゝ勞を取らんことを約して別れたりき

●長距離電話開通 豫て遞信局に於て試驗中なりし京釜間新設長距離電話は京釜及各沿線とも試驗の結果最良好なるを以て愈々來る十六日より開通することゝなりたり重要なる地の通話料金の大要左の如し

區間	一通話時の通話料	一回の呼出料
京城釜山間	金一圓	金二十錢
京城大邱間	金八十錢	金二十五錢
京城太田間	金五十錢	金二十錢
京城馬山間	金一圓	金二十五錢
龍山大田間	金五十錢	金二十錢
龍山大邱間	金八十錢	金二十五錢
龍山釜山間	金一圓	金二十五錢
龍山馬山間	金一圓	金二十五錢

●釋宗演禪師來錫 前臨濟宗管長釋宗演禪師は豫ねて朝鮮來遊の希望ありしが此度愈々巡遊の事決定し布教使間宮英宗師を隨へ去る十日出京し名古屋に二泊して直に渡鮮の私信ありたれは十五日中には著京あるべく其上は二三の公開講話も催さるべく猶當地在住の居士等の會合もあらんが日割豫定は禪師來着の上に非れば不明なり退京後は都合によつては安東縣邊迄巡錫せらるゝやもはかられずと云ふ

●仁川の金融 目下新穀出廻期にして新穀沸々出廻るの報あるも當地廻着高未だ不つて少量にして此種資金の需要尠きも鮮內地より淸商渡し送金爲替多額仕向けらるゝと土木建築工事資金及淸商の上海爲替買入資金の需要ありたるに依り上旬は稍々閑散なりしも中旬より下旬に至り繁忙なりと(十八銀行支店談)

●朝鮮勸農會社近狀 同社の事業は農具、養蠶具、肥料の依托販賣シヨンベル直輸入種苗販賣等を重なるものとして一般農產物に關する事業を營み居れるが中に就き最も盛況なるは種苗販賣なり今年は各道廳よりの需要に追はれて充分希望に添ふ能はざりしが明春植付の需要に對しては既に桑苗の如きは接木實生合して六百萬本を準備し此他林檎、梨、葡萄等の菓物苗各々十五六萬本及殖林用の實種として櫟實二百石及アカシヤの種、赤松の種、栗の實等それ〳〵既に採取し明年度は大々的に發展する考なりと云々と同社重役は語る

●民團稅制調査案(五) 民團議員 原勝一氏談

大分方々の意見も皆紙上に揭げられ大体に於て既に至れり盡せりといふ有樣であるソレに自分は先頭から二度迄も歸省し調査會の會合には僅か一回出席したのみであるから今の處別に取り立てゝ之れ話しする程の案はないが强ゐていふなら大略のところを申し述べやう家屋稅は理論上より見れば洵に好い稅目である併し實際之れを賦課するといふ段になると却々困難なものである自分は下の關の市長時代戶別稅を家屋稅に變更することにつき縣廳から調査方を囑托されたことがあつた大分研究を重ねて見たがサテ之れを實際に適用することは什麼あつても困難であるといふことを感じトウ〳〵實行は不可となつた又內地の各都市に於ても家屋稅の名目の下に徵稅して居るところは少なからうと思ふ勿論家屋稅は家屋其物に對しての稅金としては數字的で偏頗はなからうが之れに依つて他人身代を見込むといふことは困難なもので或る假令へば一紳士にして所有財產に比して宏大な家屋を構へて居るものがあるかと思ふと又は所有財產に比して矮陋なる家屋に住んで居るものもあるから決して公平の見當を立つることは出來ぬされはといつて從來の戶別稅が都市至るところ絕對に公平といふのではない隨分當局の誤ちたる鑑定によつて偏頗の點がないでもない併し其の點は比較的完全に近い方法に依つて公平たらしむることが出來るソレは各町に委員を設けて其の委員の報告を參考とすべきことであるツマリ各町に於て各個人の生活狀態に明るい有志を以て委員となし其の報告を根據とすることが比較的完全な方法だらうと思ふ、といつて自分は絕對的家屋の賦課には反對しない要は內地に於て之れを行ひつゝあるところの狀況を調査し而して之れを京城に適用し大体に於て之れで好いといふ案が立てばソレで差支ない尙日本內地は却々に國稅が重いから從つて自治体の課稅が少なくなる道は自治体の爲めに取らざるところである何れ朝鮮に於ける內地人も將來は國稅を課せらるゝことになるだらうが內地の如く重くせず可成自治体の方に課稅さるゝやうにしたいものである其の他營業稅及雜種稅等に付ては之れといつて新奇の案もなく又大体に於てあらうとも思はれぬ內地の例に依るが宜からう

●上泉司令官退京 入京中の鎭海灣要塞司令官上泉少將は十三日歸任せり

●檜垣道長官巡視 檜垣京畿道長官は當地へ來る十九日より管內各郡衙を巡視の筈

●大倉喜八郞氏の出發 滯京中なりし大倉喜八郞氏は十四日午前九時當地發太田一泊後群山に向ふ停車場には善隣學校職員及生徒多數見送れり

●岡野氏の出發 大坂朝日新聞記者岡野養之助氏は十四日午前九時當地發歸阪したり停車場には新聞通信記者其他官民の見送り盛なり

●古城民長の訪問 古城民長は十四日午前十時總督府に兒玉局長を訪問し打合せする處ありたり

●櫻井小學校生修學旅行 民團立櫻井尋常小學校男子部四年生徒四十餘名は石原校長及訓導二名に引率され十三日成歡を經溫陽二泊の豫定にて修學旅行の途に上れり

●司令部員議政府行 憲兵司令部にては十五日午前山形中佐以下十餘名にて議政府の鐵道開通式に赴く由

●南大門道路擴張工事 南大門外道路擴張は二三地主の承諾せざるものあり右は愈々土地收用令を適用することに決定せることは既報の如し然るに兩三日前右地主等は俄かに承諾することゝなりたるを以て近日中本工事に着手すべく年內には完成の豫定なるが尙北側の擴張工事は來春にいたらざれば竣成せざるべしといふ

公人私人

▲大津淸高(會計檢査院副檢査官)十三日巴城館ホテルへ
▲飯岡政直(鎭山技師)十三日巴城館
▲淺岡重喜(北韓新報社々長)同浦尾
▲柳下友太郞(海軍技師)同浦尾旅館へ
▲新藤寬三郞(檢事) 十三日平壤行
▲上泉德彌(海軍少將) 十三日馬山行
▲河野虎衛(海軍主計大監)同日馬山行
▲阿部三平(海軍少佐) 十三日馬山行
▲阿部鶴之輔(國民記者)十三日釜山行
▲大倉喜八郞十四日發太田を經群山行
▲岡野告天子十四日朝歸阪の途に就く

▲京城手形交換高▼

十月	金高	枚數
十四日	二六九、六九六、三四〇	[illegible]

▲治外法權▼

伊土兩國が休[illegible]なるのは[illegible]の布告をした、ドーセ斯ふなるのは始めから知れ切つた事だ▲と、何だかワケ無い樣な感じを起して居ると、隣りの支那に大動亂がオッパジまつ[illegible]サア事だと思つて居ると、北京に戒[illegible]令が布かれ、風雲は益急を告げる併し動亂は動亂として、今日の支那は決して昔日の支那に非ず、例の資政[illegible]は落附き拂つて豫定の仕事に掛らん[illegible]して居る、尤も北京に戒嚴令を布い[illegible]ところを見ると、イツもの動亂に比[illegible]ては少し大仕掛の樣だが、サリとて[illegible]國が懸念するやうな大事にはなるま[illegible]▲人類學の泰斗シカゴ大學の教授ス[illegible]ーと云ふ人が人類學的研究の爲め過[illegible]當地へ來たが、二三日前同じ研究の[illegible]的を以て北鮮へ行つた▲前には鳥居[illegible]藏の長白山に出掛けて人類學的研究[illegible]爲すあり、今亦たスター博士の來る[illegible]り、コトシヤ半島にとつて人類學研[illegible]の當り年か▲過日記者が開城へ遊ん[illegible]ときに同地で耳にした面白い話があ[illegible]ソレが何だと云ふに、開城の白蔘商[illegible]が內地の白蔘產地福島縣の會津に出[illegible]け、同地の白蔘を一手に買占め、ソレ[illegible]開城へ移入すると云ふ事である▲ナ[illegible]程ツー云へば內地からの移入表に白[illegible]と云ふ一項がある、ハテれかしな事[illegible]あるもの、一体人蔘の本場の開城へ[illegible]津白蔘を持つて來て何にするダロー[illegible]▲勿怪高麗朝の遺臣なる開城人は朝[illegible]一の商人、機敏なる彼等は會津白蔘[illegible]一旦開城へ移入し、ソレに開城白蔘[illegible]レツテルを附けて其多くを支那へ輸[illegible]するのである▲勿言朝鮮人は實業上[illegible]見込なしと、彼等の實業上に有望な[illegible]は開城商人の證據立つるところだ▲[illegible]議會頭を誰にするか、一日も早くキ[illegible]て欲しいね、イツイツまで其人選[illegible]グツ市に任かせて置いたつて仕方が[illegible]いではないか▲德富御大がヤツて來[illegible]亦々例の官舍に這入つたが、役人で[illegible]ない彼れに官舍住ひをさせるのは[illegible]何の譯だ▲事小なりと雖も官舍の濫[illegible]は官紀の無視、尤も總督府が貸家[illegible]始めたのなら別だ。

●外事局長談 (小松)

在京中の用向きは一般官廳の事務にして取立てゝ語る程の事に非ず當地には諸外國の總領事駐在するも交渉事件なき甚だ僅少なり併合前は種々面倒の事もありたれど今日にては横濱神戸位の事務に過ぎず▲歐米各國の朝鮮に對する注意は頗る綿密なり然し之とても回教徒たる土國が巴爾幹其他に於ける基督教徒に對する施政を注視することゝ異り日本人の殖民上の能力或は朝鮮人に對する研究的眼光に基くもの多く所謂人道の擁護などゝ稱ふるものにあらず▲日鮮間の移出入税の据置は理論上徹廢するも差支へずと雖も外品を疎外するが如き改正は國交際の情誼として避けざるべからず故に日鮮の利益と相兼ねて外國品貿易に影響せざる改正は日常に研究する所なり然し又一方に於ては關税收入の點より考へて財政上にも顧慮せざる可からず朝鮮と外國との貿易關係は併合後二割五分乃至三割の増加なるも併合の際に於ける一時の變調なるや否やは問題なり▲東京にて朝鮮に來遊したる外人及内地人の感想を聞くに皆其平穩にして衆民堵に安ずるの實際に接して成功の意を洩らし居れり蓋し新聞記者諸君の嚴格なる批評を聞きて甚だ武斷的なりとの先入感を抱きて來るが故に却て美點が多く映せる爲ならんか呵々。

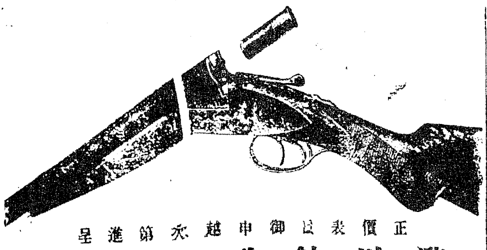
●和魂　高橋天浪投

才一世に秀て學古今に通ず此れ以て和魂を有すと爲すか廟堂の上に坐して百官を進退し一國の利害休戚を一掌に握る此れ以て和魂を有すと爲すか帷幕の裡に參し計を畫し勝を千里の外に決す此れ以て和魂を有すと爲すか威力衆に出て將を斬り旗を擧げ進みて止まず千萬人を恐れず遂に死を致す此れ以て和魂を有すと爲すか曰く然らず學識地位名譽才能權勇は未だ以て和魂を有すと爲すに足らず彼の妓樓の間に出入し曲眉の美人を擁して絲竹管絃の間に戯るゝものゝ如きに至りては固より論ずるに足らざるなり果して然らば何をか和魂と爲すか他なし道を守り義に由り動かざることは山の如く毅然として已れに克つにあり古人曰く吾れ能く浩然の氣を養ふ此の氣や尋常の間に寓して天地の間に塞り卒然として此に遇へば王侯も其威を失ひ良平も其智を失ひ賁育も其勇氣を失ふと是れ之の謂なるか我が國運の隆々二千五百有餘年の久しきも未だ曾て外寇の侵略を受けたることなし是れ東方精靈の氣萃たる和魂の發して意氣軒昂たりしに由るものにして帝國の精華並に存す然るに近時戰勝の餘弊風紀頽廢し士氣阻喪し上は宰相より下は學生徒弟に至る迄妓樓に出入し賤妓を抱へて酒池肉林に沈溺し殊に○○の風紀甚しきものありと聞く豈に慨嘆に堪ゆべけんや斯くの如きは和魂の修養を忘れて浮雲坭土の間に迷へるの致す所なり今に於て之が救濟の道を講ずるなくんば他は列國に對峙して其体面を維持することを得ざるのみならず其存立を危くするに至る然るに世人是れを悟らず徒らに藝術技能を究むるを以て能事了れりとし和魂の修養を顧みざるの傾あり此れ本末始終を誤るの甚しきものと云はざるべけんや邦國の爲め之れを憂ふるや久し偶々課題に接して抱負を述ぶ



●眞勇とは何ぞ　同上

智は一世に秀で略は万人に勝ると雖も眞勇無くんば其人たるや輕躁浮薄に流れて其終りを全ふすることを得ず彼の一時の怒に激して闘を挑み奮然腕を揮ふて人に當るは匹夫賤徒の爲せる所にして唯血氣の小勇たるのみ彼の大石義雄の奇劍に辱かしめ怒らざるは義の以て怒るべきにあらざればなり韓信の少年に忍ぶも亦然りもし此時に當り義雄にして怒りを發して挑爭せば仇人の首級は擧ぐる能はず韓信にして少年に忍ぶ能はざれば齊王たるを得ざるべし蓋し大志を抱くもの小事に忍ばざれば大謀を亂すと實に然り古人曰く義を見て爲さゞるは勇なきなりと又曰く暴虎馮河死して悔ひざる者は吾れは與みせずと是に由り之を推せば義に由り怒るのにあらざれば眞の勇者たらざることは明なり



제795호 1911. 10. 15.



チャンピオン傳(六)

民團議員辯護士 **高橋章之助君**

高橋君が其和製の羽の如な姿を京城に現はしたのはタシカ明治三十九年中の事であつたと記臆する、同業者中の古參者の一人だ、衆議院議員として其長廣舌を日比谷原頭に揮ふたのはモウ幾歳かの昔語りとなつた、けれども意氣は決して銷磨したのぢやない、老來益々旺盛である、君を老人扱とするのは可憫相だと云ふ人もあらうが开は一を知つて二を知らんと云ふ者だ、論より證據君の**長男**は**陸軍大尉**である、陸軍大尉の息子があつて見れば老人と云はれても決して腹立する資格はあるまい、諸君以て如何となすだ、然るに此の老翁年と共に增し來る精力を利用して盛んに折花攀柳を試み鼻毛と顎鬚とを打ち交せてヨヤせて喜んで御座るのを傍で見て居る夫人は餘りの苦々しさに偶には意見の一つも……と思はぬ事もないが『考へて見れば三十か四十の若い者なら格別本卦返りに手の屆く老人に意見でもあるまい自分も又此の年になつて嫉妬がましく思はれても面白からず』と思ひ返して見て御座ると一方は夫れを良い事にして遊興に耽け出す餘りの事に流石の夫人腹に据え兼ね『今日こそ』と力味では見るが畜生や下女やの手前面白からずと思案の末は**机の上に恭しく飾**つたのは**愛孫の寫眞**、而して澄して章之助君のお歸りを待つて居る、と戻つて來た老人机の上を見ると右の寫眞一目も無く縮み上つて終つて**暫く**は**外出も遠慮**をする相である。

此罪の無い老爺さんは**素人義太夫界**のチャンピオンたる事は人も知る通りである、廿六年中同業の**大岡育造**君や**磯部四郎**君やと共に東京京橋の三十間堀に居て**鶴澤大造**に就て引き續き**稽古**をしたのだ相だ、渡鮮してからは一時中絶して居たが四十一年の正月、第一銀行の龜山君の新年宴會に臨んだ時主人龜山君が自慢の咽喉を聽かせた時、絃を勤めた男の小手の冴へ案配必定只の鼠であるめへと名乘り合うと夫れが今の**奈良梅**であつた、斯う云ふ名譽な師匠が居るのならと又候稽古を初める事になつたのであつた、君は當地の**藝妓中開進亭**の**金玉**の絃が一番能く合うと云ふので**落籍**して一時近所に圍つて居たが家内の折合も上手出**大邱の大和亭**に自前で稼がせ月に**三回**宛通ひなさつて居るのだ、十八番は赤垣源藏、忠臣藏九段目、花上野誉碑志度寺の段なぞで全く素人放れがして居ると改めて申す迄も無からう。氏は傍ら龍山に農事經營を試みて居るが他が五錢で賣る南瓜も君の農園で出來たのは二十五錢位に賣らねば引合はないと云ふ、ダカラ買手がなくて困つて居る始末であるから氣の毒ながら農事經營者としてチャンピオンたるは何時の事であらうか思束ない次第である(終)

●薄命なる子持美人

△濟本憲兵曹長の寵妾

本年春も末なる四月頃より南大門外某下宿屋の一室に三歲斗りなる女兒と共に籠居せる年の頃二十一、二の容貌美しき婦人あり、何やら浮かぬ面地の婆れ勝ちに其日を送れる开が時偶訪る中老の紳士風の人あり幼な兒は其人を見ると『父樣〜〜』と嬉しがり婦人の面も幾分は晴れやかに雲斷れて日を見るが如き樣あるも其歸りを送り出づる時は涙に暮るゝが常なり、仔細ぞあらんと同宿の好事者が探り得たるを聞くが儘に記さん此婦人は山口縣柳井生れにて▲通稱を山本フサ本名を山本タカ(二三)と呼び明治四十年中渡鮮し永樂町赤門前の鋤燒屋の女中に住込みしが四十一年春警務總監部附特務曹長濟本熊藏と殷懃を通じ越えて四十一年の正月遂に公然大和町一丁目の同人宅に同棲する事となりしが同家には主人熊藏及六歲なる息子の他に食客中村某なるものあり日を經ること幾何ならずして主人熊藏はフサが▲中村と醜關係成立せし如く疑ひてこれを放逐したり、然るに一方放逐せられたる中村は永々厄介になりたる恩義を忘却し深く此の放逐一件を含みて犬蓄的復仇を思ひ立ち當時東京に在住せし熊藏の妻女に針小棒大的に其素行を密告したり、其樣事とは知らぬ如なる濟本一家は波風も無く至極無事に納まつて居しが其密告を受けた妻女は良人の上の心に掛りて四十二年の春突然▲四人の子供諸共渡鮮せしに恰も當時フサは姙娠中なりしかば周章狼狽し表面解傭した事に取り繕ひ月手に二十八圓を與へて壽座前に一家を借受け之れに住はせ置き相變らず情交を續け居たるが同年四月フサは月滿ち安々產の紐を解き▲花の如な女兒を分娩したりこれぞ後日愛の種となるべしとは神ならぬ身の知る由なくれフサは天にも昇る心地して打ち喜びしとは然もあるべし、然れば熊藏は益足繁く入浸るにぞ妻女も薄々夫れと感附き偶には意見をして試ても當人一切『遣らうよ〜』と白ばくれて取り合はざりしが一日又候其問題の出た折恰度其場に居合せたる息子(當年九歲)は突然口を挿み『れ母さんの來ない時分は▲フサは僕の母樣だつた』と意外に巧妙なる素破拔きに言ひ遁るゝ術なく不都合の段々明白となりしにぞ自然フサの方への足は遠くなると同時に手當金の支給さへ杜絶へて終には其日にも窮する如く成りし時も時彼れが豫て惱み居たる惡性梅毒は愈々重り行く有樣を見兼ねたる隣家の野村裁縫所の妻女其他が相談の上『幼兒はれフサの方にて引き取る事にして養育料二百圓を支出する事』と云ふ條件にて持ち込みたる▲手切話成立したるは四十三年の秋なりし、然るにれフサは內金五十圓を受取り殘金は送金する約束にて罪の塊なる愛子を傍に鄕里柳井に歸りたるが實家は元より親類緣者も父親なし兒を伴れ歸りし如な女は▲子で無い親戚に非ずと刎ね付けられしも皆んな身から出た錆人を怨まんも詮もなく殘金百五十圓の送金を待ち暮したれども何の便りもなきに幾度か催促するも埒も開かず今は唯母子兩人の露命を繫ぐ料にも事缺く如成り行きしより知邊の者に泣き着きて旅費を調へ逢ふて話をせんものと可愛盛りの娘を携へ渡鮮したるは即ち前記本年四月の末花風なきに散る曉なりき▲爾來人を介して約束の履行を迫りたるに熊藏も流石に恩愛の情に曳かれて自ら旅宿を訪れて温き言葉にれフサの心を慰め居る內舊交は茲に温りたる然りとて約束は履行せられず、嚴く迫れば怒つて歸ると云ふ始末にれフサは秋の哀れを身に占めて破窓の下に世を嘆き居るなりとぞ(終)

●奸夫奸婦の陰謀

▽本夫を毒殺せんとす

朝鮮人の姦通事件は敢て珍らしくもないが茲に姦夫姦婦が本夫を毒殺せんとして果さず其筋に檢擧されたる事件を聞くに姦婦は京畿道廣州郡東部面拜閣里四統七戶卅業朴鐵鍋の妻李福曦(一七)にして姦夫は隣家の李部事方小使姜致榮(四二)なるが李福曦は本年四月中旬より夫朴が他出して不在中一時の情欲に堪へずして隣家の小使なる姜と私通し姜は李福曦が美女なるより我が物にせんと姦夫姦婦相謀り本夫を毒殺せんと決意し當時本夫朴は痢病にて煎藥服用中に付毒藥を入れ服用せしめたるに朴は最初舌にて一應味ひたるに一條の服藥と違ふより飲用を中止し遂に一條暴露して其筋に檢擧され檢事局に送られ目下兩角檢事の手にて取調中

●一個の種で二重

大分縣人當時櫻井町四十九番戶ノ九居住古原勝藏西新吉の兩名は大和町三丁目六十二番戶ノ五居住金刺良藏より金二百五十圓を借用するに當り土地家屋を買受けるに付賣買手續終了と同時に擔保に供す可く契約にて借受け乍ら賣買手續終了後他の者より擔保にて金を借り受け居る事發覺し詐欺取財として告訴され南部署に告訴され一件記錄は檢事局に送らる

●仁川の放火犯人

原籍岡山縣苫田郡高田村二千二百七十四番地目下住所不定茂渡光三郎(三九)は去月二十八日仁川支那町八田利三郎方石炭倉庫に放火し直ちに其筋に逮捕され爾來仁川區裁判所に於て取調中の處十三日豫審決定し詐僞取財、橫領罪、放火犯の併合罪の下に公判に附せらる

●仁川消防隊の演習

仁川警察署管內の常備消防隊二十五名及義勇消防隊六十六名は十四日午前九時より猫島埋立地に於て秋季大演習を擧行せり

日曜集會

▲京城基督教會(相生町) 十五日午前十時より禮拜說教午後七時半より傳道說教あり演題左の如し

(朝)價値の顚倒 丹羽清次郎氏

(夕)碎けたる魂 河野千敏氏

▲メソヂスト(旭町二丁目) 十五日午前九時日曜學校、午前十時より禮拜說教午後七時半より傳道說教あり

(朝)幾度まで赦すべきか 藤岡師

(夕)アブラハム公の献物 同上

▲微笑會 十五日午後三時より初音町臨濟寺に於て碧岩集例會提唱あり

▲本願寺の信友會 去る一日第一週年の定期大會を催し既に二十五回の例會と四回の臨時會を開き更に機關雜誌を發行して愈々其の基礎を强固にしたる本願寺の信友會は今十五日午後七時半、南山本願寺にて本月第二回目の例會を開き今回新任の本願寺朝鮮布教監督兼京城別院輪番長谷得靜師の信仰談ある由なれば道を求むる同志の人々は續々來會あらん事を望む

●演藝だより

▲壽座 後藤一座十五十六兩日の代り狂言は一番目渡瀨霞亭作『想夫憐』にして場面の變化は從來のものと異れり二番目は喜劇『かたれもひ』にして一座の手に入つた演物なりと重なる役割は女中れ玉(北子)小泉修藏大工頭梁佐吉(內田)濟助女房れかな島末女中れ松(深津)後室貞子、鳥末料理店主人(雪岡)夫人稚子(藤田 伊原濱子鳥末の妹れまつ(松下)岩崎一彥 若旦那新三郎(藤野)中野濟助、清吉(後藤)

▲御成座 片岡鶴之助の浪花節芝居

▲浪花館 翫圓一座の色物にて娘奇術太神樂等あり近來になき好取り合せなる上切は座員總出の茶番あり十五日夜の切は『口入屋』なり

●本願寺經營 行路病者收容所の三十分(三)

白面子

清い冷たい風に吹かれたので大分心地が好く成つた、サラバ使命の全部を果すべしと左、婦人部とある方に入つて見ると炊事室に隣つて設けられた室が即ち婦人部だ、一度懲りて居るので鼻と口とは袖で蔽ふてヅツと一歩進んで『世話人は居ないか』と聲をかけると四十七八歲位の男が出て來て『私が世話人です、何御用で』と頗る恐縮して居る『**現在患者**は何人居るのか』と聞くと『ヘエ、**男子が十人**に**婦人が一人**で』と答へ乍ら炊事室の隣部屋に案內した、室內に入るとムツとして嘔吐を催す、ナマ唾はドロ〜〜出る、此も職務だと氣を確に持つて世話人に問答を初めた記『君の姓名及年齡生國は』世『龍田忠次郎本年四十七愛媛縣人で私も患者の一人です』記『收容せらるゝ人の經歷は』忠『多くは濡手で粟の摑取り位の考へで渡鮮して見ると內地で思ふたとは天地の差異なのに下宿屋や安宿に居て途方に暮れて居る間に**所持金は減**る奉公しろ何千人と云ふ無職者が居るのですから**雇主が無**い何にでもと思つても其內に所持金は一文も無くなる下宿屋からは虐待される其內に病氣に罹る國へ歸らうにも旅費は無し手紙を出しても返事は來ない其所で御厄介に成るのが重で中には職が無くて困窮の除り一時の出來心から罪を犯し懲役に行き放免後直ぐに病氣に罹つて收容される人も御座います、兎に角少し手頼る所の無い木から落ちた猿同前な者斗りです、ハイ全快すれば直ぐ出て行きます』記『患者の名簿を見せて呉れ』忠『最近のものが御必要でしよう、何か御取調の事ですれば何うか最近の三四名に止めて下さい、何分疑起の自由の叶はぬ者も居りますで』彼は僕を刑事巡査の如に思つて居る、出して來た名簿を繰ると十月六日收容とありて

愛媛縣溫泉郡東中島村神の浦七百四十六番地 田村儀平(三七)

とある 記『之れは如何して收容されたのか』忠『當地に於て商業に失敗し病氣に罹つたが頼る人はなし內地に同胞は二人あるが送金しない爲めに』次を見ると十月五日收容とありて

鹿兒島縣日置郡下梅村二百九十四番戶 下江金太郎(四三)

忠『此は內地に兩親がありますが何か犯罪があつて永登浦監獄に入獄出獄後間もなく病氣に罹つたので』次が九月二十七日收容とありて

福岡縣三瀦郡大門村 本村次郎(二八)

忠『此は商業に失敗しましたので、中學三年迄修業して居りますので』彼れは僕の爲めに患者の經歷を說くこと鮮かである、猶次に進まんとする時又々異樣の臭氣は我鼻を撲つて堪え難い、何の臭氣かと彼に訊ねたら彼は憮然として『ヘエ、**料理屋や魚屋**の**捨てた魚の骨**杯を**副食物**に**煮**て居るのです』と答ねた(續く)







容易なる立身成功の途を求むる人に告ぐ須く本會講義錄を看よ

大日本國民中學會

最善最良の中學講義錄を求むる人に告ぐ須く本會に入會せよ

◀講義錄見本つき規則書申込次第進呈▶

◉會員の特典 本會々員は中學講義錄を受くるの外 學術雜誌を無料にて配布せられ 圖書館に入りて自由に閲覽するを得可く 地方巡回文庫を設け更に地方會員の便宜を圖る法を定めたり 本會員は總て學校在籍者以上の便宜あり

會長 前文部大臣 尾崎行雄

東京神田駿河臺 振替東京二百 電話本局三〇〇二▼三〇〇四▼三七〇七

▲萬朝報曰く最も懇切に最も效果多き講義錄也 ▲報知新聞曰く中學講義錄中世に一頭地を拔けるもの也 ▲毎日新聞曰く此講義錄と同じく就て學べば中學校に入る者と同じからん ▲東京朝日曰く最も平易に最も懇切也 ▲國民新聞曰く本會の基礎は最も堅固なる 講義は勿論べて文部省令に據れる點に於て秀たり

◉本會講義錄に對する世評

鮮明社 活版印刷

▲迅速叮嚀▼ ▲價格低廉▼

京城太平町二丁目 電話千百五十四番

株式會社米川仁

△賣買は秘密に確實を旨とし敏速懇切に取扱申候 △相場は日々入電御望の方へは電話にて御報申上且引ケ后は無代で日報高低表配付仕候

京城古市町、南大門停車場前 合資會社 山柴山組 電話二九八番 電話一六八八番



京城本町五丁目 發賣元 角南支店 製造元 角南本店

冬物大賣出し

拾月拾五日より同貳拾壹日まで 七日間

右期日中新柄取揃へ大賣出し仕候御買上げ金高に應じ相當の御添物進呈可仕候

尚見切反物並に釣切等澤山準備仕候

京城本町四丁目 山口呉服店 電話九番

京城本町五丁目 山枝呉服店 電話二二四番

京城本町三丁目 圓城呉服店 電話一五七番

京城本町二丁目 惠阪呉服店 電話七二六番

京城本町四丁目 末永呉服店 電話六八二番

神經を衰めず腦病を全治す

島村醫學博士の有効證明を得たる健腦丸は、腦病神經病に奇效を奏し逆上を引下げ、便通を心能し、中風卒中を未發に防ぎ恐るべき腦充血を全治す



腦病全治新藥 健腦丸

記憶力悪き人頭痛する人 神經衰弱にて氣分鬱ぐ人 常に腦神經を勞する人の必用藥は獨り本劑のみ也

定價 一日分十錢、三日分廿五錢、七日分四十五錢、二週分八十五錢、五週分金一圓

本舗 大阪心齋橋二丁目丹平商會藥房 分店 大阪平野町堺筋北丹平商會分店 支店 東京日本橋區室町丹平商會支店 ▲賣捌は全國有名藥店に取次す

御料理 金山寺 味噌

製造發賣元 京城南大門通 遠藤商店 電話九八二番

長崎流 志るこ 茶碗むし むしずし

南山町二丁目 松その 電話一一八五

腹痛と 下痢

腸の患ひ一切には

▲醫學博士柏村先生の御製に係る醫界理想の腸胃藥ヘルプを用ひよ



腸胃新藥

効能 ●痢病●腸加答兒●食傷●腹痛●吐瀉●腸の瓦斯●水傷●時候あたり●寢冷●痢急後重等一切の下痢を止め腸胃を整へ惡疫を豫防す

本舗 東京今川橋 津村敬天堂 南詰 取次は各藥店にあり

注意

猥りに村井弦齋先生を利用する類似品あり 本品の外●村井先生の實驗證明せられたるものなし

村井弦齋先生實驗證明●糠精●と命名せらる

かつけ 腸胃 心臟 病 特効 食料 糠精

證明書

尾崎兄弟飼禽場ニ於テ試驗ノ結果尾崎氏製糠精ノ脚氣心臟胃病ニ偉効アルコトヲ證明ス

明治四十三年六月一日 陸軍二等軍醫正ドクトル都築甚之助印

●製造發賣元 東京中澁谷尾崎兄弟飼禽場 ●各地藥舖食料品店にあり 販賣元 東京麻布霞町宮崎商會藥舖 大阪出張所 大阪北區堂島船大工町一

特約店 京城本町三丁目 龜屋商店 振替口座朝鮮二七番 電話二七番

同 釜山辨天町二丁目 福榮商店 振替口座東京九五一五番(電話三三九番)

獵銃 獵具 火藥

京城本町六丁目 增戶銃砲店

ストーブを圍む時期は來れり!!

▲火附好く ▲熱量高く ▲永持する ▲無類格安の

石炭

京城南大門外 林商會石炭部 電話七四三番

御注文有次第一叺にても速達可仕候!!

眼科專門

前大韓醫院眼科部長 金井豐七

京城本町六丁目(元軍司令部通り) 金井眼科醫院 電話一五五六番

鳥網

霞網(雀用 五間 四圓五十錢 / 同 鳩鶉用 八間 四圓 / 同 鴨用 十二間 四圓)

地方よりの御注文は引換小包照會は往復はがきの事

京城明治町一丁目 網京商店

時下秋冷相催候處御客樣方には益御勇剛に渉らせられ大慶此事に存候降て弊亭儀開業以來一方ならざる御贔負御引立を蒙り以御蔭日增繁榮に趣き候のみならず茲に七週年に相當致候は偏に御眷顧の賜と厚く御禮申上候扨て今回聊か內祝旁且つは御客樣方へ何かな御禮にご存じ新に內地にて撰ぬきの美妓五名を召抱ね其上數年東京及京都にて腕を鍛ひし板場をも召連れ一層入念吟味の御料理を此際特に御安値に差上げ可申候間何卒倍舊御來駕被下候て新嬪の酌に新鮮美味の調理を御賞翫あらん事を伏て奉希上候以上

京城旭町三丁目

會席 御料理 開進亭 電話九一番

◎南大門道路擴張の爲め南大門驛より約西半丁精米前所に移轉

旅館 蓬萊町 東洋館

◎目下南大門驛前に三階建家屋新築中不相變御贔負を乞ふ